

米高貳千石程の事。
一、奥州並關八州より白米相廻し候儀、無用の段先年申渡候得共、向後相廻し無滞賣買可仕旨、米問屋へ被仰渡候事。

以上

一、中國筋諸侯へ被仰渡書面
松平安藝守殿・松平大膳大夫殿・小笠原遠江守殿・毛利周防守殿留守居共へ、左の通紙面御渡候事。

中國邊夜中通候者等へ、鐵炮飛道具を用盜賊有之候旨沙汰有之候。迫門内荷物など積候通し船の者へは、右の躰の儀有之沙汰有之候。御國許御在所より傍輩中へ參候て、右の物語仕者承被及候儀も有之候哉、其段相尋候處、無其儀旨令承知候。常々可被仰付候得共、蟲付に付米高直に候へば御領國往來並湊廻米など、妨無之様に被仰付可然候。右の趣中國・九州筋の御方へ、寄々申達候様可被仰渡候事。

一、江戸城堀浚へ助役の諸侯

此間左の諸侯六七人へ、御堀さらへの御用被仰渡候。細川六丸殿へも二十五日に被仰渡候處、御斷に付二十八日被指除候。

出羽秋田二十萬五千石 佐竹右京大夫殿
奥州會津二十三萬石。御幼少に付保科輝正殿名代。松平長菊殿
羽州米澤十五萬石。在國に付奉書米澤へ參る。上杉彈正大弼殿

越後新發田五萬石 溝口出雲守殿
奥州三春五萬石 秋田信濃守殿

勢州久居五萬三千石 藤堂大膳亮殿

御普請奉行 藤堂出雲守殿

御目付 稻葉出雲守殿

石川庄九郎殿

此御用に罷出候日傭十五歳以上の者へ、錢百二十四文宛。非人組の者へは米五合・錢二十四文宛被下候筈。

一、大和屋三郎兵衛の施行

大坂中嶋にて大和屋三郎兵衛と申者飢人へ錢壹萬貫文施行仕候旨申來る。

一、諸侯進物省略の幕令

丑正月二十三日、松平左近將監殿御宅にて、被仰渡候御書立如左。

參勤進物

正月

御太刀馬代黃金壹枚 十萬石以上、西九へも同斷
御簾中様へ、白銀三枚

御太刀馬代白銀壹枚 十萬石以下、西九へも同斷
御簾中様へ、白銀一枚

箱肴二種 十萬石以上、西九へも同斷
御簾中様へ、一種

箱肴一種 十萬石以下、西九へも同斷
御簾中様へも同斷

右の外在所の土産等献上も可爲無用候。唯今迄間の献上仕來候分は、土用中・寒中一度宛、魚鳥の内一種宛可被指上候。

一、老中初其外へ贈物、參勤・端午・重陽・歳暮共に無用に候。

正月

一、去秋領分作毛蟲付損亡有之、拜借金被仰付候面々は別て致儉約、家來・領内共に取續申様に盡精力御儀可爲專要候。依之當丑年より卯年迄三ヶ年の内、献上等の儀も別紙の通に被成御用捨候間、被存其趣、自分の儀右三ヶ年の内は、猶更急度儉約可仕候。

右の通被仰出候條可被得其意候。以上。

一、參勤諸侯の任務

蟲付損毛に付て拜借被仰付候面々、今年參勤の分は御門番・火の番等も被仰付間敷候間、召連候人數別て可爲減少候旨相達候。當年被下御暇、在所へ被相越候面々も隨分人數可爲減少候。來年參勤の節は、御門番・火の番被仰付にて可有之候。爲心得申達候。

正月

一、江戸町數・家數・人高調
享保十七年四月、東都町人中人高如左。但町數千六百七十貳丁。表通家數拾貳萬八千七百貳軒。人數五拾貳萬五千七百八人。

内 三十萬五千人 男

二十萬九千人 女

二萬六千五百人 出家

三千七拾五人 山伏

九百人 禰宜

外に 八千九百六十人 吉原内